

法然上人行狀絵図

観覚よろこびて此ちごを相具して母の
所にゆきてことよしをかたる見童母
儀をこしらへていはくうけがたき人身
をうけあひがたき仏教にあふ眼のまへ
の無常をみて夢の中の栄耀をいとふべ
し就中に七父の遺言耳の底にとゞまり
て心のうちにわすれずはやく四明にの
ぼりてすみやかに一乗をまなぶべし但
母よにいまさん程は晨昏の礼をいたし
水菽の孝をつとむべしといへども有為
をいとひ無為にいるは真実の報恩なり
といへり一旦の離別をかなしみ永日の
悲歎をのこし給事なかれと再三なぐさ
め申 母堂ことはりにをれて承諾のこ
とばをのぶといへども袖にあまるかな
しみの涙小児のくろかみをうるをす有
為のならむしのびがたく浮生のわかれ
まどひやすくてかくがおもひつゞける

為

令和 年 月 日

浄写